

第15回（令和3年度）学会賞について

日本地図学会の学会賞は、表彰規定上評議員会で決定され会長から表彰を行うことを原則としており、本年は8月に開催された総会にて表彰式を実施した。第15回（令和3年度）学会賞の受賞者と授賞理由は以下のとおりである。尚これらについてはHP上でも公表している。また、学会賞創設当初から教育普及賞において現場教員等を対象とした副賞提供についてご協力いただいている一般財団法人日本地図センターに対し、心より御礼申し上げる。

野村正七地図賞：

野々村邦夫 会員（（一財）日本地図センター顧問）

<受賞理由>

野々村邦夫会員は、行政、教育・研究、民間において、それぞれの立場から地図および地図学の普及啓発、発展などに、下記のとおり特に顕著な貢献をされてきた。国土地理院においては、測図分野、地理調査分野、地理情報分野における第一線の活動を含め、基本図の整備等に長年従事した。特に、基本図整備の合理化、数値地理情報の開発・実用化、北方4島・竹島・尖閣諸島の地図の刊行等を積極的に主導した。環境庁出向中を含め、環境分野における地図の活用についても留意した。教育・研究においては、広島工業大学特任教授、法政大学、明治大学、駒澤大学、首都大学東京の非常勤講師として長年にわたり、地図学の講義等を行った。（一財）日本地図センターでは、研究活動等支援事業、地図地理検定、教員免許状更新講習、地図倶楽部等の事業を発足させ、これらを積極的に展開した。地図の普及啓発に関する活動では、書籍・雑誌・インターネットでの執筆・編集、講演・講習・通信教育、テレビ・ラジオ出演等を長年にわたり多数行った。また、2012年以来岐阜県図書館特別顧問として同図書館の地図関連事業を支援するほか、岐阜県児童生徒地図作品展の審査委員長として審査・講評を行っている。これら多岐に跨る長年の活動は高く評価される。

野村正七地図賞：

鈴木純子 名誉会員

<受賞理由>

鈴木純子名誉会員は、地図の歴史・地図学に関する高い学識を有している。それは地図図書館学に裏打ち

されたものであって、日本だけではなく、国際的な視野をもったものであり、高く評価される。1997年に気象庁で伊能大図写本43枚を発見し、また2001年にはアメリカ議会図書館の伊能大図の調査を行った中心の一人であり、現在も、伊能忠敬研究会代表をつとめている。日本地図学会（旧日本国際地図学会）では、長年にわたって地図史／地図史料・地図アーカイブ専門部会の主査をつとめており、学会運営にも大きく貢献し、女性の地図学者のさきがけとして活躍していることは高く評価される。

論文賞：

野上道男 会員

<論文>

野上道男(2019):伊能大図における星測と横切測量・方位測量による導線位置の補正-第4次測量までの例-(地図,57巻3号,1-13.通巻227号に掲載)【論説】

<受賞理由>

野上道男会員が著者となっている論文「伊能大図における星測と横切測量・方位測量による導線位置の補正-第4次測量までの例-」(「地図」57巻3号掲載)は、我が国の地図史上良く知られる伊能大図について、星測・横切測量・方正測量が導線位置の補正を通じて精度向上にどう寄与したかについて論じたものである。著者は大図における導線計測の実例を多数検証することにより、方位測量の役割や星測の精度向上の役割などを明快に示した。本研究は、測量成果としての伊能大図における精度の本質について大きな示唆を与えるものであり、その内容は高く評価される。

論文奨励賞：

該当なし

作品・出版賞：

齊藤忠光 会員（元（一財）日本地図センター）

<作品>

『地図とデータでみる都道府県と市町村の成り立ち』
平凡社(2020)

<受賞理由>

本書は著者が1990年代に「マーケティングのためのGIS基盤データ「全国の大字町丁目界地図データベース」の企画開発に携わったことを契機に、我が

国における現在の行政区画の成立過程に問題意識を持ち、退職後に大学院で本格的に「地域史」研究に取り組み、古代日本の国郡区域から始まる各時代の変遷事例を地図と統計データを分析した修士論文および本学会機関誌「地図」発表論文等を集大成し、いかに現在の日本の行政区画が成立したかの変遷過程を判り易く一般向けにまとめた著述である。本書の特徴は各時代の施策過程で作成された行基図、国絵図、国郡絵図、伊能図、明治期地籍図、大日本帝国全図等の地図が多数紹介・解説され地図専門家にとっても大変有益であり、今後、日本の人口減少等ともなう新しい日本の地方創生を考えるうえで広く国民にとっての参考文献として高く評価できる。

教育普及賞：

ICTでシェアする地理教材研究会

<受賞理由>

今般のコロナ禍のなか、全国の地理教員で構成されている全国地理教育研究会(全地研)の有志(約30名)が結成した「ICTでシェアする地理教材研究会」は、オンライン授業で活用することを前提とした地理教材(Google SlideやGoogle Earth creation tool)を作成し、無償で公開する活動を2020年4月から展開している。この活動は、①Googleスライドを用いることで、各授業で必要に応じてカスタマイズが可能、②地理院地図やGoogle Earth、今昔マップなどGISツールへのリンクを多用しているため、生徒が主体的に学べる、③制作者も利用者の声を反映して随時手直し・アップデートが可能、などの特徴を有しており、地図・地理教材の普及において、極めて有意義な活動である。2022年の「地理総合」の必修化に向けて、当該団体の活動により、幅広い地図・地理教材の充実と、全国の地理教員とのネットワーク構築の面で、極めて高い効果が期待される活動である。以上の理由から、日本地図学会賞(教育普及部門)にふさわしいと考えるため、推薦するものである。

功労賞：

越前欣也 会員、稲葉和雄 会員、木下章 会員、中山裕則 会員

<受賞理由>

長期にわたり、会員として日本地図学会の活動に貢献された。

特別賞：

近代測量150年記念事業推進会議

<受賞理由>

近代測量150年記念事業推進会議は、1869年に近代測量が始まってから150年の節目を迎えた2019年度に実施された「近代測量150年記念事業」を、地図・測量に関わる各機関と連携し、中心となって進めた。近代的測量・地図作成の150年間の発展を振り返るとともに、未来を描く起点となるよう、新旧の地図や測量機器の展示、フォトコンテスト、新旧の測量スポットを訪問するウォーキングツアーなどさまざまなイベントの企画・開催、特殊切手の発行、小・中学生向けの教材の作成・配布、「測量・地図150年史(仮称)」の編纂などを行った。これらの取り組みを通じて、測量・地図作成の意義や歴史について、広く国民に知らしめた。このことは、地図学の普及・発展に大きく寄与するものであり、高く評価できる。

特別賞：

長久保赤水顕彰会

<受賞理由>

長久保赤水顕彰会は、茨城県高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801)の功績について広く発信している。長久保赤水是、茨城県高萩市出身で、水戸藩の儒学者として藩政への学術的・技術的提言を行うとともに、地理学者として『改正日本輿地路程全図』(1780)、『改正地球万国全図』(1785)を刊行し、国内外で広く活用されている。前者は、国の重要文化財に指定(2020)されている。実測図でないものの、伊能忠敬の『大日本沿海輿地全図』より30年以上前に、幕府勅撰の日本図や諸国の国図を基に編集され、経緯度線も初めて描かれた。刊行後も文献や旅人からの情報に基づき改定を重ねたことは、今日のリアルタイム地理空間情報の原型といえる。これらの地図には、日本の北辺や大陸との間にある島嶼が、今日の知見からみても的確に描かれており、地図史としても地政学的にも意義も大きい。このように、長久保赤水の功績とこの地図の科学的・地政学的な意義とを一般向けに広く普及啓発した活動は、高く評価できる。